

盗撮ハンマー教員、正義の鉄槌。「俺に任せろ・学校を守りたい」

「ねえ、あの段ボール箱、なんかおかしくない？前、あんなのあったっけ？」

体育のプールの授業前、K 市立 K 中学の 2 年 3 組と 4 組の女子生徒たちが、女子更衣室で着替えていた。

「確かに、あんなの前はなかったね」

「ちょっと、一応確認しとこ」

女子生徒 2 人が棚の腰の高さにある段ボール箱に近付いていく。

他の女子生徒たちは、もう着替え始めていた。次のプール授業までの休み時間は、10 分しかない。

女子更衣室でスクール水着に着替えて、運動場のわきにあるプールに行かなければいけない。

ゆっくりしている時間はなかったけれど、女子生徒 2 人は不審な段ボール箱をしっかりと確認しようと近付く。

「ねえー、なんか、ここ穴開いてない？」

「うそー。ほんとだ」

段ボール箱にわずかな穴が開いていた。

少し大きめの傷といえなくもないけど、不審な穴であることは間違いない。

「一応中開けて、確認してみよ」

「そうだね。時間ないから急いでね」

女子生徒が段ボール箱を開けようとする。

でも、段ボールにはガムテープがびっしりと巻かれてあった。

「だめだ、開かない。このテープ開けてもいいのかな」

「だめかもね。勝手に破ったりしたら。っていうか時間ないよね。私たちも早く着替えないと」

「そうだね、どうする？」

「まあ、大丈夫でしょ。早く着替えよ」

女子生徒 2 人は段ボール箱をそのままにして、着替え始めてしまう。

しかも、そのままの流れで、ちょうど段ボールの穴の目の前で着替えてしまった。

急いでいたため、タオルで体を隠すこともしなかった。

一度はカメラがあるのではと疑ったはずなのに、軽く確認して満足したのか、堂々とおっぱいや股間を晒しながら着替えてしまった。

女子更衣室なので、ここには、当然、女子しかいない。

だから、別にタオルで体を隠す必要はないといえはない。

でも、一度高まった警戒心を一気にゼロに解いてしまった。

中学校の更衣室に盗撮カメラがあるわけがないと、高をくくってしまった。

その判断によって、油断によって、この女子生徒 2 人は、全裸生着替え映像を盗撮されてしまうこととなってしまった。

不審な段ボール箱の中には、スマートフォンが仕掛けられていたのだ。

女子生徒が不審に思った小さな穴のところにちょうど、スマホのカメラレンズがあり、そこから着替えの様子を盗撮していたのだ。

この日の放課後。

1 人の男性教員が、用がないはずの女子更衣室にこっそりと入ってきた。

男性教員の名前は、八幡信光(仮名)。

この中学校の 51 歳の体育教員だ。

八幡信光は女子更衣室の中で、段ボールのガムテープをやぶり、スマホを取り出した。

そして、そのまま映像の確認に入る。

「おおーっ。撮れてる撮れてる」

八幡信光は満足げに独り言を小さな声で言っている。

「おっ、これ2年3組の安田と宮本じゃねえか。やべ、疑われてる」

「でも、段ボールは開けなかったわけね。おーすっげー。2 人ともタオルなしかよ。こりゃたまらん。おっぱい丸見え、陰毛も丸見え。けっこう生えてるじゃん、宮本。まだ中 2 だろ。エッチなアンダーヘアーしてやがるな。やっべー最高だなー。すげえもん手に入れたぜー」

八幡信光は動画を見ながら満足感に浸っていた。

そして、股間はおっこりと膨らみ、我慢汁が大量に出ていた。

自宅に帰ってから、八幡信光はゆっくりと動画を鑑賞した。

自分が勤務する中学校の女子生徒たちが生着替えしている動画。

中学校の女子更衣室の本物の盗撮映像。

未成熟なおっぱいやアンダーヘア—までも晒け出している動画。

現役 JC のデリケートゾーンがしっかりと映っている。

まだ中学生なので彼氏もないだろう。

まだ誰にも見せていない、誰のものにもなっていない女子中学生の身体を八幡信光は堪能した。

八幡信光はとてつもない高揚を感じながら、何度も何度も、マスターベーションを繰り返した。

別の日。

この日は 3 年生の 1 組と 2 組の女子生徒が更衣室で着替えていた。

この日もプールの授業前なので、制服からスクール水着に着替えようとしている。

「ねえ、あの段ボールなんだろう？」

「さあー」

例によって、女子生徒 2 人が段ボールを不審に思った。

「開けてみよ」

女子生徒が段ボールを手を取った。

「テープも開けてみるね」

巻かれてあるガムテープを剥がしにかかる。

びりびりと音を立てながら、ガムテープを剥がしていく。